

愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所長	山岡 傳一郎
医師	若松 貴哉 (4月退職)
非常勤	光藤 英彦 (初代所長)
	高橋 甫 (3月から研修医師)
	角藤 裕 (自治医大研修生)
	田中公仁康 (12月から研修)
鍼灸部	玉井 弘文 (4月退職)
	山見 宝
	真鍋 昭生
薬局	赤崎 達子
	山口 祐子
看護部	大下 由美
研修鍼灸師	中島 貴和 (鍼灸専攻5年目)
	谷村 依里 (鍼灸専攻5年目)
	大塚 素子 (鍼灸専攻4年目)
	脇口 典子 (鍼灸専攻4年目)
	松原 里美 (鍼灸専攻3年目)
	寺阪 嘉峰 (鍼灸専攻3年目)
	村上 哲哉 (鍼灸専攻1年目)
	大宮由起子 (10月転出)
	田嶋 恵子 (3月転出)
	小林 靖 (3月転出)
	山師 侑子 (3月転出)
	近藤 大 (10月転出)
事務	島矢 真里

1. 研究所概要と診療状況

1979年8月20日に私共の東洋医学研究所が開設されて今年で30周年を迎えることとなった。30周年を記念して、平成21年11月14日に、愛媛大学医学部神経内科教授野元正弘先生、久我正明先生(九我耳鼻咽喉科院長)を招き、愛媛県医師会館にて東洋医学公開講座『東洋医学ではぐす、頭痛、めまい、肩こり』を開催した。約200人の方々に参加いただき、盛大な講演会が開催できた。このような支援をいただきながら、今後も40・50周年を迎えられるように愛媛県民への東洋医学普及活動を推進したい。なお、翌日11月15日には第38回日本東洋医学会中四国支部総会愛媛大会を開催した。日本東洋医学会愛媛県支部の先生方に協力頂き、演題募集に工夫をこらした。企画段階で特別講演を会長講演のみとし、中四国の全会員に東洋医学に関する質問を募り、これから東洋医学をはじめたい人への漢方・鍼灸Q&Aのセッションを実施した。例年以上の約150人の参加を得て有意義で和気藹々とした学会を開催できた。

私共の鍼灸技術研修生などの学会運営能力のおかげで成功裏に会を終わることができるとともに、東洋医学研究所の結束力を増すこともできた。

今後は、隣接する愛媛県立中央病院(本館)の老朽化による立て替えが始まり、おおきく様変わりを呈し始めている。私共の東洋医学研究所も立て替え構想の中で総合診療部-東洋医学科(名称案)として存続することが決定した。研究所の建物自体は取り壊されることになるが、初代所長光藤の医療イデオロギーを継承し、県民の安心の依り処となる病院の一翼を担いながら、次世代へと東洋医学を適切に伝えたい。

以下、研究所概要を記載する。

現在私共の病院には240人余りの医師がいる。多くの医師は日常診療で漢方薬を処方するようになった。さらに鍼灸も指導できる医師も増えつつある。ブームとしての東洋医学は終わったが、医師不足、看護師不足、医療資源不足の現代においても、東洋医学を医療の中で運用する意義が残っていることを私共は痛感している。多くの患者が殺到する病院で、かつての「3時間待ち3分間診療」以上に実質的診療時間は短縮し、検査や投薬は増えるが医療の本質である、癒しや見立て(診断と予後推定)のレベルは向上しにくい。新医師臨床研修制度が開始され、すべての医師が基本的診療能力(プライマリーケア能力)や医師としての人格の涵養を求められている今日こそ、心身一如として作用し、しかも効率的である東洋医学が必要であると考え。医学部のコア・カリキュラムに東洋医学(「和漢薬を概説できる」)が取り上げられたことも適切であると思われる。東洋医学の担い手は勿論医師だけではない。近年、鍼灸師養成機関(鍼灸大学など)が増加し、多くの鍼灸師が生まれるようになった。しかし、医師と同様に卒後研修が不可欠であることが指摘される。私共は平成9年から、鍼灸卒後研修プログラムをつくり指導に当たっている。最近では、医師不足が深刻な地域医療機関で筋骨格系の問題(腰痛や膝痛)をかかえる多くの患者をケアしなければならない医師を鍼灸師が支援する活動を行っている。私共の研究所で短期研修を受けた整形外科医(自治医大卒10年目)が地域に派遣された際に、その医療活動を支援するために鍼灸師を毎月2-4日派遣するようにした。住民には非常に好評であり、今後も継続拡大していく予定である。

四国には四つの県と四つの大学に医学部があ

る。年間 400 人弱の医師が卒業するが、卒後四国を離れて研修する人々も増えている。そこで四国に残って臨床研修を受ける魅力を少しでも増やせるように、有志があつまり、『四国漢方セミナー』の世話会をつくり、年に 2 回の会合を企画準備した。すでに、第 1 回（愛媛松山 2009.1.31-2.1）、第 2 回（徳島 2009.1.17-18）、第 3 回（高知）と実施して、2010. 年秋に第 4 回（香川高松）で一巡する。新しい教育法であるチュートリアルを取り入れて漢方・鍼灸の教育を実践している。

私共の将来目標は、『10 年先（2020 年）に、総合診療能力を兼ね備えた適格医師 100 人と、医師と協力できる適切な能力をもった適格鍼灸師 100 人を愛媛で育てるようにすること』（10-100-100 プラン）である。なお、薬剤師や看護師、および介護にあたるスタッフに東洋医学のエッセンスを伝えることができればよいと考えている。

私共研究所で開発し、実践してきた下記の事項を以上の目的に役立てたい。

- 1) 時系列分析法の開発
- 2) 慢性健康障害患者(QOL 障害患者)への東洋医学の運用
- 3) 穴位主治症の研究(明堂経の復元)
- 4) 古代の四刺法(虚法・泄法・除法・実法)の復元
- 5) 鍼灸卒後研修プログラム / 東洋医学専攻医プログラム
- 6) 地域におけるヘルスプロモーション / 鍼灸師による僻地医師の活動支援
- 7) 病棟での鍼灸運用

(Baby Friendly Hospital における乳汁分泌促進支援)
(退院支援プログラム)(がん患者の緩和医療)

なお、私共の病院では多忙を極める診療の中で、体調維持、健康増進のために時間をつくるのが難しいスタッフのために、院内アメニティーとしての『東洋医学体験コーナー』を設置した。毎月、1 回、東洋医学の体験ができるコーナーとして設けられた。院内 LAN で職員に周知し、希望者に鍼灸治療を行っており、評判も上々である。平成 19 年度は 210 名、平成 20 年度は 240 名・平成 21 年は 241 名のスタッフに体験していただいた。病院職員のアメニティーの場、職員の健康増進の場、および東洋医学に親しんで頂く場として運営している。東医研スタッフのボランティア精神育成と研修鍼灸師の研修の場としても勿論役立っている。

本年度は、東洋医学研究所研修交流会を開催出来なかった。この会は、当研究所 OB・研修鍼灸師 OB と定期的に連絡しあいチームとしての結束力を高める意味で開催されている。来年度はまた開催を予定している。

2, シンポジウム・学会報告・講演会など

◇原著

- 1) 山岡傳一郎：イライラ感、漢方診療のイロハ、南山堂「治療」、vol.91、No6,2009
- 2) 山岡傳一郎：えひめの公立病院における鍼灸治療-お灸文化再生のための街づくりと人づくり-、日本温泉気候物理医学会雑誌、73 (1) : 37-38,2009
- 3) 山岡傳一郎：難治の疾患を対象とした鍼灸治療、チーム医療における癌の鍼灸治療の実践、医道の日本、vol.68、No.2,73-79,2009

◇特別講演・教育講演

- 1) 山岡傳一郎：漢方の歴史、第 1 回四国漢方セミナー（松山）、2009.1.31
- 2) 山岡傳一郎：鍼灸実技、第 1 回四国漢方セミナー（松山）、2009.2.1
- 3) 山岡傳一郎：シンポジウム「流感と漢方」～四柱八湯説の紹介～、第 38 回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会、2009.3.7
- 4) 山見 宝、大塚素子、大宮由起子
シンポジウム「流感と漢方」～感冒と鍼灸～、第 38 回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会、2009.3.7
- 5) 山岡傳一郎：「総合診療部のあり方」～研修医とともに学んできた 10 年を振り返り～、愛媛県立中央病院総合診療部十周年記念講演会、2009.4.12
- 6) 山岡傳一郎：第 74 回温泉気候物理医学会、保険診療機関における鍼灸治療シンポジウム、えひめの公立病院における鍼灸治療-お灸文化再生のための街づくりと人づくり-、2009.6.12
- 7) 山岡傳一郎：医師のための鍼灸セミナー、「地域社会における鍼灸治療」、第 60 回日本東洋医学会総会、2009.6.21
- 8) 山岡傳一郎：疼痛性障害に対する東洋医学、日本東洋医学会中四国支部山口県部会、2009.7.11
- 9) 山岡傳一郎：「外来診療における心のケアの実践例」第 6 回愛媛こころのケア研究会、2009.7.25
- 10) 山岡傳一郎：総合診療部におけるこころのケア運用処方、愛媛県薬剤師研究会、2009.9.8
- 11) 山岡傳一郎：漢方チュートリアルの試み神戸蒲公英会定期研究会、2009.9.12
- 12) 山岡傳一郎：日本で最も短い漢方総論、第 2 回四国漢方セミナー（徳島）、2009.10.18

◇一般講演

- 1) 真鍋昭生・寺阪嘉峰・谷村依里・山岡傳一郎：「東洋医学と健康」。高齢者学級：味酒公民館：2009,3,13
- 2) 谷村依里・山岡傳一郎：総合周産期母子医療センターと連携した褥婦に対する針灸治療。第58回(社)全日本鍼灸学会学術大会埼玉大会。2009,6,12。
- 3) 脇口典子・山見宝・山岡傳一郎：時系列分析面接と穴位反応診察の有効であった1例。第58回(社)全日本鍼灸学会学術大会埼玉大会。2009,6,12。
- 4) 大塚素子・山見宝・山岡傳一郎：えひめ東医研におけるがん患者への針灸治療の試み。第60回日本東洋医学会学術大会：東京：2009,6,21
- 5) 真鍋昭生・山見宝・山岡傳一郎：えひめ東医研における鍼灸卒後研修プログラムについて。第60回日本東洋医学会学術大会。東京。2009,6,21
- 6) 真鍋昭生・寺阪嘉峰・山岡傳一郎：アトピー性皮膚炎に有効だと考えられる刺絡術について。第18回日本刺絡学会。東京。2009,6,28
- 7) 寺阪嘉峰・真鍋昭生・山岡傳一郎：慢性腰痛に有効な刺絡術について。日本刺絡学会第18回学術大会。東京。2009,6,28。
- 8) 山見宝・脇口典子・田嶋恵子・大宮由起子・真鍋昭生・山岡傳一郎：産業医活動における針灸治療の試み～健康保持増進のために～。第58回(社)全日本鍼灸学会学術大会埼玉大会、2009,6,21
- 9) 山見宝：愛媛東医研における刺絡鍼法の実際。刺絡学会大阪刺絡講習会。森ノ宮医療学園専門学校。2009,8,9
- 10) 松原里美・山見宝・山岡傳一郎：復元主治条文における腰痛について、日本鍼灸史学会第17回学術大会、京都、2009.11.21
- 11) 山岡傳一郎：石坂宗哲の鍼灸について～事始めに補瀉から～、日本鍼灸史学会第17回学術大会、京都、2009.11.21
- 12) 大塚素子・山見宝・山岡傳一郎：感染予防に対する技術と意識向上のための活動報告。第47回愛媛県立病院学会：愛媛県今治市：2009,11,28
- 13) 真鍋昭生・脇口典子・山見宝・山岡傳一郎：産業医活動における針灸治療運用の試み。第47回愛媛県立病院学会。愛媛県今治市：2009,11,28
- 14) 谷村依里・山見宝・山岡傳一郎：総合周産期母子医療センターと連携した針灸治療の取り組み。第47回愛媛県立病院学会：愛媛県今治市。2009,11,28。
- 15) 山見宝・小林靖：えひめ東医研における灸療の実際。日本臨床鍼灸懇話会第48回全国集会大阪大会。森ノ宮医療学園専門学校。2009,11,28。
- 16) 山岡傳一郎：えひめ東医研の歴史と展望、愛媛県立中央病院東洋医学研究所30周年記念講演会。愛媛県医師会館。H21,11,14。
- 17) 山見宝・東医研スタッフ：鍼灸医学からみた肩こり。愛媛県立中央病院東洋医学研究所30周年記念講演。愛媛県医師会館。H21,11,14。

◇雑誌その他

山岡傳一郎：『触れる 語る』連載対談第8回、愛媛県立中央病院（えひめ東医研）、医道の日本社、2009,10.vol68.No.10